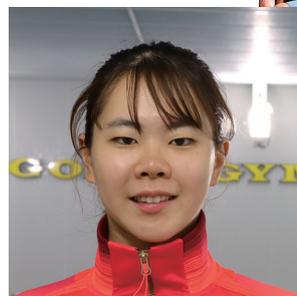


長きにわたる 土浦の歴史と伝統のなかで 培われてきた地域の宝は、 ここに住まう「人」です

土浦市は、誰もがその人らしく暮らし、それぞれ抱く夢や希望をかなえ羽ばたくことができる「夢のある」まち、そして人と人がつながりあい、地域社会を支える、活気あふれる「元気のある」まちを目指しています。

今回の特集では地域の安全、伝統、未来それぞれを担い、活躍している皆さんを紹介します。



＼夢のある、元気のある／

土浦の

キラリ

輝く地域の宝

地域の安全を担う

人と人がつながりあい、
安心して暮らせるように

消防
団員

塚本 航さん(25歳)
土浦市消防団第33分団(上坂田)
令和5年度土浦市消防ポンプ操法競技大会
「1番員」個人賞

—消防団に入団したきっかけは？

もともと消防団に所属していた先輩から誘われて、令和3年に入団しました。

—消防団ではどんな活動をしていますか？

私が所属する第33分団は現在9人で活動しています。日常的に行っている主な活動は、毎月1・15日の午後8時ころから行う夜警です。防災の呼びかけなどをしながら、地元を中心に消防車で見回りを行っています。

—消防団でのやりがいを教えてください

活動を通して、地元の方とのつながりが広がるのがやりがいとなっています。

消防団とは
消防組織法にもとづき、市町村に設置される消防機関。地域の消防防災のリーダーとして、住民の安心・安全を守るという重要な役割を担う。



消防職員

田中 豪さん(42歳)
土浦市消防本部警防救急課係長
平成13年に土浦市消防本部入庁
特別救助隊長などを経て現職



—消防士になったきっかけは？

人の役に立てる仕事がしたいと考えていたときに、自宅近くで発生した火災現場での消防隊の活動を目の当たりにして感動し、消防士を志しました。

—現在の業務内容を教えてください

消防本部と消防団の組織運営に関する業務の一部を担当しています。土浦市の未来を見据え、地域防災を担う組織力の向上に取り組んでいます。

—どういったときにやりがいを感じますか？

何と言っても、災害現場で感謝の言葉をいただいたときです。消防職員は現場で、市民の皆さんは自分の家族という気持ちで救助活動をしています。「ありがとう」の一言をいただいた瞬間は全てのことが報われた気持ちになります。

—市民の皆さんにお伝えしたいことは？

ご自宅の住環境の点検・整理整頓をお願いします。住環境を整えることは、いざというときの避難経路の確保や火災予防のために重要です。

近年、大規模な自然災害の頻度が増えています。皆さん一人一人の小さな防災が、被害をより小さく抑える大きなポイントになります。

防災のポイント

- 廊下や階段に物を置かない
- 大型の家具などを倒れないように固定する
- コンセントの周囲は定期的に掃除する
- 使用していない家電などのプラグは抜いておく
- 通電火災を防ぐための感振ブレーカーを設置する

土浦市消防本部と土浦市消防団は、さまざまな訓練を行っています



水難救助訓練



水防訓練



山岳救助訓練



秋季点検



救助訓練



ポンプ操法訓練

伝統・文化を担う

長きにわたる歴史と伝統により
まちの魅力を通じて地域の活力へ



田宮ばやし保存会の皆さん



——田宮ばやしについて教えてください

田宮ばやしは、毎年7月最終日曜日に地元のぎおん祇園祭で奉納される神前ばやし囃子です。その歴史は古く、室町時代から形を変えながら続いています。昭和52年には県指定無形民俗文化財に指定されました。三切り、ほうそうばやしなど7曲の演目があります。

——どのような活動をしていますか？

30歳代を中心に、下は5歳から上は89歳までの田宮地区にゆかりのあるメンバーが会に所属し活動して

います。毎週土曜日の午後6～8時に練習を行っています。祇園祭のほかに、市民体育祭やこまちまつりなどの各種イベントでもお囃子を披露しています。

——伝統をつなげることへの想いは？

これからも田宮ばやしを保存・維持していくため、地元の方々の理解と協力を得ることが大切だと考えています。また、後継者育成にも力を入れています。伝統的な文化は残しつつも、今の生活スタイルに合わせた活動をするように心がけています。



乙戸町の皆さん

——しめ縄の大蛇について教えてください

1年に1回、毎年12月第1日曜日に皆で集まって作り、鳥居の上に祀っています。できあがったしめ縄の蛇は6mほどの長さになります。なぜ大蛇なのか、いつから行われているのかなどの記録は残っていませんが、先祖代々伝わっているものを続けています。



——伝統をつなげることへの想いは？

しめ縄に使うわら用の古代米の稲を育てたり、大人数での力作業が必要であったり、簡単なことではないですが、先祖が続けてきた伝統をできる限り残していきたいと思います。負担が少なくなるよう工夫できることはして、若い世代の方に伝えていきたいです。

未来を担う

それぞれ抱く夢や希望をもって
羽ばたけるように

スポーツ 選手



佐藤 友花さん(23歳)

アーティスティックスイミング(AS)選手、筑波大学4年生
ゴールドジム土浦茨城ジョイフルアスレティッククラブ所属
パリオリンピック2024代表(チーム5位・デュエット8位)
弟・陽太郎さんと組むミックスデュエットでも活躍

——オリンピックに出場した感想を教えてください

メダルを目標に生活のすべてを捧げてオリンピックに臨みました。メダルを取れなかったことはもちろん悔しいですが、演技をやり切れなかったという気持ちの方が大きかったです。1か月ほどこれからについて悩んだ期間がありましたが、やり切っていないということは、もっとできることがあるのではないかと思います。今はやり切ることを目標に練習に取り組んでいます。

——ASの練習はとてもハードだと思います

努力を継続する秘訣やモチベーションは？

練習を振り返ったときに、今日はこういうことができるようになったという発見が少なくとも1つはあるので、そういった自分が成長したところを見つけられることがモチベーションになっています。

——今後の目標や夢を教えてください

2028年のロサンゼルスオリンピックに出場し、自分の演技をしっかり出し切ったうえでメダルを獲得することです。ルールの変更後、演技の内容に関する戦略が重要になりました。海外の選手たちと積極的にコミュニケーションを取り、日本らしい戦略を追求できるように、また国際的なASのつながりに貢献できるようにしたいです。

——夢に向かって頑張っている子どもたちにエールをお願いします

大きな夢を持ったうえで、今の自分を見つめて、一歩先の小さな目標を見つけ、1つずつ達成し積み重ねていけば、いつの間にか大きな目標にたどり着けると思います。目の前のことに全力で取り組んでほしいです。

令和6年8～11月に市役所に報告に来ていただいた方を紹介します

軟式野球

第22回全日本女子軟式野球学生選手権大会
(中高生の部) 準優勝
第9回全日本中学女子軟式野球大会 3位



左から
茨城 SuperGirls
古垣 黎奈さん(土浦第六中学校)
池田 夢陽さん(土浦第六中学校)
返田 映真さん(都和中学校)

硬式テニス

ユニクロ全日本ジュニアテニス選手権2024
U14女子ダブルス
3位



石井 美空さん
(土浦市在住、
茗溪学園中学校)

スケートボード

FLAKE CUP 2024(関東大会)
2位

平田 遼吾さん
(土浦第二小学校)

